

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

## 事業名 スマート農業普及推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 スマート農業推進係 電話番号：058-272-1111(内4023)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,218 千円 (前年度予算額： 10,019 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,019	8,910	0	0	0	0	0	0	1,109
要求額	12,218	0	0	0	0	0	6,654	0	5,564
決定額									

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

農業者の高齢化の進行などによる担い手不足や労働力不足が深刻であり、これまで以上に作業の省力化・効率化、軽労化・技術の平準化等が課題となっている。

そのため、ICTやロボット技術、AI等を活用して、これらの課題解決につながるスマート農業技術の導入・普及が必要である。

## (2) 事業内容

○スマート農業推進協議会の運営(844千円)

スマート農業推進計画の推進状況や推進方針に関する協議や、県内各地域でのスマート農業の普及推進等を行う協議会を開催する。

○スマート農業推進拠点を活用したスマート農業の普及(9,954千円)

スマート農業推進センターに加え、新たにスマート農業推進拠点に位置付けた農業技術センター、中山間農業研究所において、地域の実情に即した研修会、スマート農業機器の貸出等を実施する。

○地域に根ざしたスマート農業の推進(1,420千円)

地域ごとに、生産者向けの研修会等を開催する他、JAなどと連携し地理的条件や品目に応じた展示、実演会を開催する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

スマート農業技術の導入による経営規模の拡大、多収・高品質生産は、県農業を維持・発展するために必要であり、県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	571	スマート農業推進協議会有識者、研修講師
旅費	868	全国の先進事例調査、セミナー、展示会・実演会の視察等
需用費	609	資料作成、機械燃料費等
役務費	4,585	通信料、保険料等
委託料	5,039	トマトモデル温室データ解析等
使用料及び賃借料	546	会議室使用料等
合計	12,218	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2019～2023年度）  
Ⅱ－3－（3）－② 「未来につながる農業づくり」の推進
- ・ぎふ農業・農村基本計画（2021～2025年度）  
第6章 将来像達成に向けた取組み
- ・岐阜県スマート農業推進計画（2019～2023年度）  
重点施策（1）情報集約・発信、（3）技術研修
- ・岐阜県DX推進計画（2022～2026年度）  
第2章－Ⅲ－12－（1）－② 生育・環境データ等に基づく管理・診断技術による生産管理の高度化

### (2) 後年度の財政負担

- ・2018年度に、今後5年間の岐阜県スマート農業推進計画を策定、2022年度には2026年度までを計画期間とする見直しを行う予定としており、次年度以降も継続した推進が必要。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 スマート農業技術の導入・普及により、作業の省力化・効率化、軽労化・技術の平準化等を図り、農業経営の大規模化や高品質生産を目指す。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R5)	
					達成率	
①スマート農業 技術導入経営体 数	168	345	418	455	550	76%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>農業者等が、スマート農業技術の最新情報、機器・機械を学び、実演会、機器の貸出等により、当該技術を導入効果の意識づけができた。                      農業者を指導する農業普及指導員及びJA営農指導員が、スマート農業技術の基礎知識を身に付け、相談、指導体制が強化された。</p>
令和3年度	<p>スマート農業推進センターに加え、令和3年度からは農業技術センター及び中山間農業研究所（本所、中津川支所）をスマート農業推進拠点に位置付け、リレー方式で貸出機の展示、貸出を行うとともに、併せてセミナーを開催するなど情報発信機能が強化された。</p> <p>指標① 目標：550 実績：418 達成率：76%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 2	農業経営体の減少、労働力不足が進んでおり、省力化、高品質生産に結び付くスマート農業技術の普及が期待されている。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	R2の年度目標値285経営体に対して実績は345経営体であり、順調に事業効果が発揮していると認められる。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 1	農業者等が地域の実情に応じた技術を学び・体験できる体制となっている。

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 さらなるスマート農業技術の導入・普及を促進するためには、最新技術の知識、効果等に係る農業者の理解促進を図る必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県農業の抱える課題解決のために、スマート農業が大きな役割を担っているが、スマート農業技術は毎年進歩しており、今後も継続してスマート農業技術の県内への導入・普及を図っていく必要がある。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	【〇〇課】